

特42

456

正訂 觀世流講外 卷之番

小 借

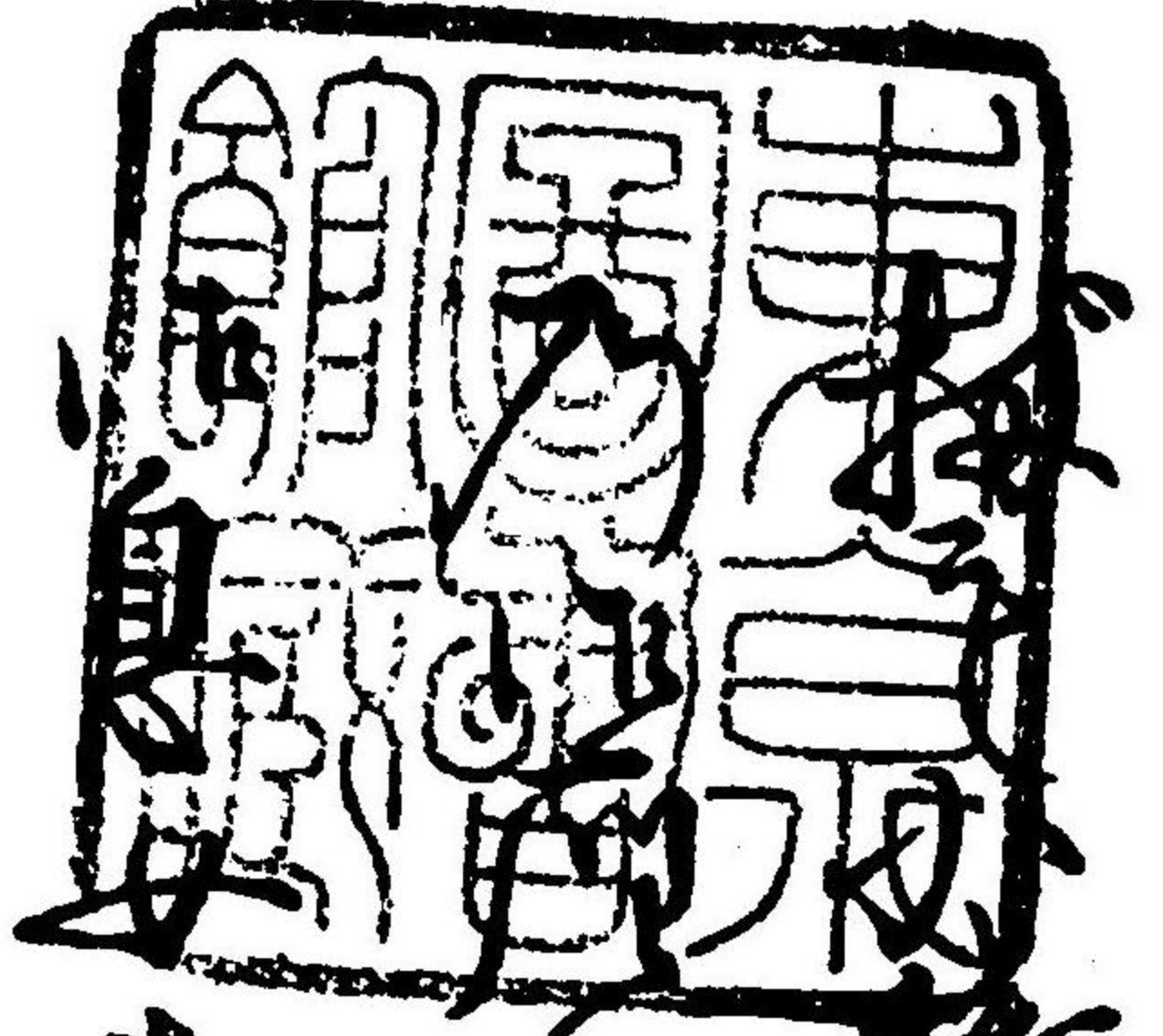
19

特 447

口平初

小碇

是より高倉院よはしむるは下あり



中宮より一と相國の
まねを女の筆でなす

まねの筆でなす

君の筆でなす

あつて今更けに十日夜にさへ同様に

弾はさへあつてさへあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

いふもあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

給上らるゝ上りてあはれむ上るは上りて
屋よけの上直旨の上入上門上た上りて
ま上りて上りて上りて上りて上りて
つ上ま上りて上りて上りて上りて上りて
新上さ上りて上りて上りて上りて上りて
仲國殿上の上所上存上の上物上を上備上へ
ま上りて上りて上りて上りて上りて
か上りて上りて上りて上りて上りて
竹上者上の上数上の上を上し上りて上りて
新上役上の上行上の上方上を上給上りて上りて
袖上の上方上を上し上りて上りて
暖上殿上の上方上を上し上りて上りて
衣上代上の上方上を上し上りて上りて

一清行法と書なりと書しるす旨

旨と蒙る厚く佛書と云ふこと

まじり持て多歩してゐるおはなれ

百直書清なるやと給りて巻

申らるゝも厚く一河東

ぞうりてゐる行法と頼り

乃水くまの跡と云は情

まじり書なりと書しるす旨

舞の心と云ふことと書しるす旨

まじりてゐる行法と云ふこと

まじりてゐる行法と云ふこと

まじりてゐる行法と云ふこと

まじりてゐる行法と云ふこと

まじりてゐる行法と云ふこと

耳泉殿ミミ衣イうウるルのノ思オモひヒがガさサくクわワのノ衣イのノ思オモひヒがガさサくク
火ヒのノ煙エビもモ跡アトをヲ面オモ敷シのノ思オモひヒがガさサくク
衣イのノ思オモひヒがガさサくク中ナカにニ切キりリとト唐カラ帝ミカド
乃ナ古コ支シのノ躰タマ山ヤマ宮ミヤのノ私シ語ゴのノ思オモひヒがガさサくク
とト秀ヒケるルよヨ寄ヨるル露ツキ衣イのノ思オモひヒがガさサくク
袖スベのノ思オモひヒがガさサくク秋アキのノ霜シロ衣イのノ思オモひヒがガさサくク
わワのノ思オモひヒがガさサくク風カゼのノ思オモひヒがガさサくク

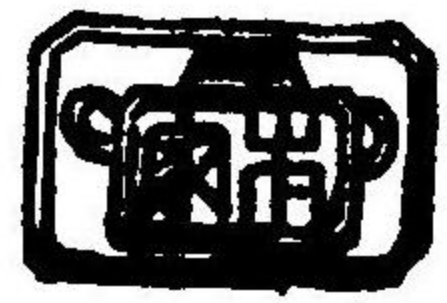
中ナカのノ思オモひヒがガさサくク衣イのノ思オモひヒがガさサくク
衣イのノ思オモひヒがガさサくク身ミのノ思オモひヒがガさサくク
かカのノ思オモひヒがガさサくク衣イのノ思オモひヒがガさサくク
たタのノ思オモひヒがガさサくク衣イのノ思オモひヒがガさサくク
らラのノ思オモひヒがガさサくク衣イのノ思オモひヒがガさサくク
切キのノ思オモひヒがガさサくク衣イのノ思オモひヒがガさサくク
りリのノ思オモひヒがガさサくク衣イのノ思オモひヒがガさサくク

立まゝ毎人のあつたつたを
 手打の唐衣の袖
 打あつた御眼申あつた
 約よびつらつら
 ちあつたつたつたつた
 都へつたつたつたつた

右之本者觀世大夫織部以章句
 真本令放行畢

天保十一年庚子歲孟春改正再板

皇都三條通御幸町西江入町
 山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷
 明治廿六年二月同日訂正出版
 明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
 宮内省御用達

訂正者 觀世清廉

發行所 京都市上京區三條通御幸町
 兼印刷者 檜常之助



板權 所有

